



すぎのこつうしん

平成26年度4月号 古川東町カトリック保育園



4月の目標 『 温かな家庭的雰囲気の中で新しい生活に慣れましょう 』

日増しに暖かくなり在園児は身軽な服装で園庭で元気に遊んでいます。

4月ドキドキ ワクワクの季節がおとすれました。初めて保育園に入園されるお子さん、別の保育園から転籍されるお子さんたちと親御さんたちは、不安と期待、そして進級されるお子さんの親御さんも担任が変わり慣れてくれるかと心配でいっぱいだと思います。

古川東町カトリック保育園では、4つの心『あいさつ・ありがとう・あやまりあう・あたえあう』を育む事をねらいとしています。

4月は新しい生活が始まる月ですので「温かな家庭的な雰囲気の中で新しい生活に慣れましょう」という目標を立てました。“温かな家庭的な雰囲気”を職員が一丸となり実行し、居心地のよい場所を作って行こうと思っております。一日も早くお子さんと親御さんとの信頼関係を築き、園に来ることが楽しい、安心するという場にしたいと考えています。とはいえ、子どもたちはそれぞれ違います。すぐに慣れる子、1カ月以上も泣いてしまう子、と様々です。でも、時間はかかっても必ず慣れるものです。親御さんたちは心配したりあせる気持ちがつのることでしょうが、大丈夫です。子どもたちは柔軟です。いろんな環境や行動に適應することで成長します。親御さんも共に成長していけると信じています。

先に書きました4つの心は、これから大きく成長していく子どもたちにとって「生きる力」となり、子どもたちを育てていく親御さんたちにとっても仕事をしていく上でも社会で暮らしていく上でも「生きる力」となるものだと考えます。カトリック保育園で、子ども、保護者、職員が「4つの心」を大切にしながら共に育ててまいりたいと思います。これから一年間宜しくお願い致します。

< 園長 平野 義子 記 >

行事予定

- 1日(火) 第45回入園式
- 2日(水) 新入園児家庭訪問
- 4日(金) 静修の日
- 9日(水) 内科検診
- 11日(金) 歯科検診
- 25日(金) 誕生会

※ 避難訓練

4がつうまれの

おともだち

おたんじょうび おめでとう



♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ 今月の歌 ♪ ♪ ♪ ♪ ♪

『まりあさまのころ』

- 1、まりあさまのころ それはあおぞら
わたしたちをつつむ ひろいあおぞら
- 2、まりあさまのころ それはかしのき
わたしたちをまもる つよいかしのき
- 3、まりあさまのころ それはうぐいす
わたしたちとうたう もりのうぐいす
- 4、まりあさまのころ それはやまゆり
わたしたちもほしい しroyやまゆり
- 5、まりあさまのころ それはさらあいや
わたしたちをかざる ひかるさらあいや

『せんせいとおともだち』

- 1、せんせいとおともだち せんせいとおともだち
あくしゅをしよう ぎゅぎゅぎゅ
- 2、せんせいとおともだち せんせいとおともだち
あいさつしよう おはよう
- 3、せんせいとおともだち せんせいとおともだち
にらめっこしよう めっめっめっ



クラスだより

ばんび組 (0歳児)

<ねらい>

- ・家庭的雰囲気の中で生活リズムを大切にしながら安心して過ごす
- ・外気に触れる心地よさ、のびのびと手足を動かす楽しさを味わう

<家庭連携>

※慣れない環境の中での生活となります。はじめは不安で泣いてしまう事が多いかもしれませんが、ご家庭ではゆったりと過ごせるようにしてください。
 ※春の陽気の心地よさを感じられるよう暖かい日は外気に触れる機会を作りましょう。

ひよこ組 (1歳児)

<ねらい>

- ・温かな雰囲気の中で楽しい環境に慣れる。
- ・春の自然に触れながら楽しんで遊ぶ。

<家庭連携>

※新しい環境に少しずつ慣れていけるようスキンシップを図り安心して過ごせるようにしましょう。
 ※外で一緒に遊ぶ中で春の自然に触れることを楽しめるようにしましょう。

ことり組 (2歳児)

<ねらい>

- ・新しい環境に慣れ安心して生活する。
- ・春の自然に触れながら、戸外で体を動かして遊ぶ

<家庭連携>

※新しいクラスになった喜びや不安な気持ちを受け止め、家庭ではゆっくり休めるようにしていきましょう。
 ※所持品には名前を書き忘れないようにご協力お願いします。
 ※春の自然に触れたり、戸外で体を動かして遊ぶ楽しさを感じられるようにしていきましょう。

こねこ組 (3歳児)

<ねらい>

- ・家庭的な環境の中で進級した喜びと期待を持ち生活する。
- ・保育士や友だちと関わる中で新しい環境に慣れる。

<家庭連携>

※進級した喜びと共に不安な気持ちも受け止めて関わって行きましょう。
 ※午前のおやつがなくなり、活動する時間が長くなるのでしっかり朝食をたべてきましょう。

うさぎ組 (4歳児)

<ねらい>

- ・生活の仕方がわかり、自分で出来ることはしようとする。
- ・進級した喜びと自覚をもち、家庭的な雰囲気の中で生活する。

<家庭連携>

※自分でしようとする気持ちを認め、意欲的に行えるよう声をかけていきましょう。
 ※不安な気持ちを受け止めながら進級したことを喜び合い、行動に自信が持てるように話していきましょう。

ひつじ組 (5歳児)

<ねらい>

- ・家庭的な雰囲気の中で、友だちと進級した喜びを分かち合いながら生活する。
- ・春の自然に興味を持ち、積極的に関わろうとする。

<家庭連絡>

※年長児になった喜びや不安を受け止め、励ますことで自信を持つようにしましょう。
 ※身の回りのこと(食事・着替え・排泄・通園バックなど)をなるべく自分で行えるよう関わりましょう。

給食室より

新しく保育園に入園するお友達、一つお兄ちゃん、お姉ちゃんになるお友達の給食を心をこめて作っていきたく思います。4月は、新しい環境に慣れることに子どもたちは精一杯です。無理なく、食べやすい食事を提供したいと考えています。また、体調も崩しやすい時期ですので、規則正しい生活、「早寝・早起き・あさごはん」をスローガンに元気に生活を送れるようご家庭でもご協力お願いします。



“てとてをつないでかぞくみだいにともあったかい”

これは、私が以前卒園児を担当したときにクラスみんなで作ったカトリック保育園の園歌にてでくる5番目の歌詞です。「カトリック保育園ってみんなにとってどんな所?」「お友だちや先生はどんな存在?」と聞いた時に1人の男の子が発言してくれた言葉でした。私はこの言葉を聞いた時、涙があふれた事を今でも覚えています。

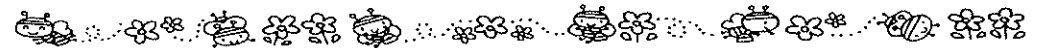
毎年やってくるこの4月、新しい生活が始まることで子どもたちにとっても不安な月です。なかなか慣れてくれず夜寝てもできなかったり、声をかけても逃げ去ってしまったり。

“子どもが好き”という理由が1番で目指した保育士になって10年。今では中堅と呼ばれる立場になりました。しかし、10年という経歴はあるもの今でも毎日反省と勉強の日々です。“こういう時どうすればいいんだろう” “どうしてあの時子どもの気持ちを分かってあげられなかったんだろう” 悩む日々です。

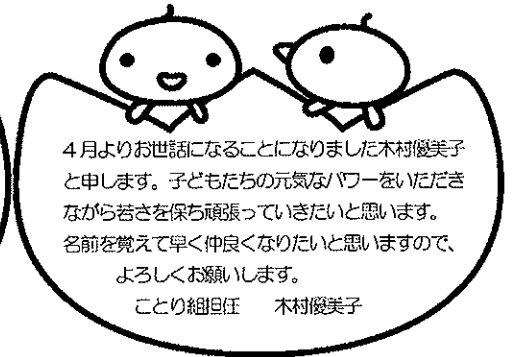
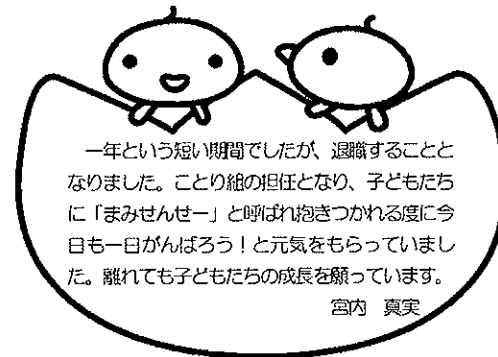
そんな時、私はあの言葉を思い出します。そうするとその言葉が私を励ましてくれるのです。“子どもたちの気持ちに寄りそえる先生になるんだ”と。

初めての生活、新しい環境は大人にとっても不安なもの。子どもたちの不安の気持ちを受け止め、安心した心で笑ったり、時に泣いたりしながらも伸び伸びと毎日を過ごしていけたら。子どもたちと手と手をつないで家族みたいにとってもあったかい場所、保育園がそんな場所になればと心から思います。

<ことり組担任 岡崎ひとみ>



お話しさせて





ご入園、進級おめでとうございます。春の息吹と共に新しい友達を迎え、「温かな家庭的雰囲気の中で信頼関係を築きましょう！」という心の教育目標のもとに一年間育児のお手伝いをさせて頂くお恵みに心から感謝いたします。なんとといっても、幼い子ども達をご両親の温かさを離れて、8時間も、10時間も又仕事の都合で12時間も保育園で過ごすことの不安感は、筆舌に尽くしえないものがあるだけに、保育に関わる責務の重かつ大であることを心に刻み、各位の忍耐と愛によって、この一年間を無事故で伸び伸びと心豊かな保育園生活が精神的にも肉体的にも、健全に育成されるのを祈念してやみません。

一日も早く保育園が子ども達にとって自分の家庭と同じように心も体も安心して身を委ねる場であり、思う存分遊べる場、遊びと生活を通して、心のあり方を互いに学び合い、社会性を深める場でもあり、人格形成の育成に奉仕する聖なる場であることをあらためて見直しをして、4月の教育目標に力を尽くし、保育の気高さと尊さに心の目を向け、保育士と保護者が一丸となって精進していきましょう。保育士は単に衣食住を楽しく分かち合う場だけではないことに目覚めない人は、保育士としての資格はないと思います。子どもに対する態度によって保育の質が、どんな結果を与えているかを自重自戒し、互いに補完し合って、各位の任務を果たされるように努力していただきたいと思います。まさに、「育児は育自であり、子どもはあなた方が保育するように育つ」という理念をしっかりと心に刻んで保育に関わる全ての人々の献身的、損得駆け引きなしの愛の奉仕を子ども達に捧げてほしいものです。このことが温かい家庭的雰囲気をつくるのではと信ずる御仁です。

保護者の方々には、差別なくどなた様にも明るく接し、感謝の気持ちを常にもって「あなたの大切なお子様を預らせていただき、保育の手伝いをさせていただきます」という謙虚な姿勢こそ保育の質を高めるポイントになります。このことを決して忘れないようにしたいものです。

保育の運営は、一人で行われるものではありません。聖書に書かれている通り人間の体は一つでも、それぞれの機能を持った部分から成り立っています。耳が目に向かって「お前は要らない」とは言えず、脳は、足に向かって「お前たちは要らない」とも言えません。それどころか体の中で他よりも弱く見える部分がかえって必要なのです。神は見劣りする部分を一層引き立たせて体を組み立てられたのです。それで、分裂が起こらず、各部分が互いに配慮し合っています。一つの部分が苦しめば、全ての部分が共に苦しみ一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです。保育士は保育園共同体の部分です。各部分が純愛を持って、保護者の子ども達の保育という聖務を担って、保育園という道場で自己完成するよう召されていることに目覚めてほしいものです。尚、このことは保護者の方々の協力なしには成就することができないのです。

各位の謙虚な心で信頼感と赦し合う寛容な心を分かち合うことです。チームワークを祈りましょう。「わたしの名によって祈る人に、わたしは恵みを与えましょう」とイエスはころを一つにして祈ることを求めています。

All for One, One for all ! を心に刻み温かな家庭的雰囲気をつくりましょう。

カトリック古川教会

司祭 川井 啓

